

少し前に、サグラダ・ファミリア「イエスの塔」完成のニュースを見ながら、昨年放送された『サンドウィッチマン&芦田愛菜の博士ちゃん』でサグラダ・ファミリアを特集した回を思い出しました。愛菜ちゃんがスペインで「ガウディの意志を受け継ぐ者の一人」とまで言われる主任彫刻家の外尾悦郎さんへのインタビューしていたシーンがとても心に残っていて、あらためて聴き直してみたいと思ってインターネットで探してみました。

愛菜ちゃんが外尾さんに「自分の好きなものを追い求めていく子どもたちへ何かメッセージを」と尋ねたときの外尾さんの回答をぜひご紹介したいと思います。

「そういう子どもたちに、自分はメッセージなんて言えない。そのまま続けてほしい。その子たちは無意識のうちに、ほかの人から見たら、とても勇気のあることをしているのだけど、本人は、勇気を振り絞ってそれをやっているかというそうではない。楽しんでやってる。やりたいからやってる。お父さんやお母さんから、『それ(夢中になってやっていること)を今はやめて、他の勉強をしなさい。』と言われたとき、その子は内心、悩んでるかもしれない。そんなとき、お父さんとかに『うん、分かった』って言いながら、頭の中ではどうやって今やっていることを続けようかと画策する。それが無意識の勇気というか、大切なこと。お父さんお母さんに特に伝えたいのは、子どもが好きなことを見つけたら、親としては『最高のチャンス』だと思ってほしい。子どもは止めなきゃいけないくらいに突っ走って行く。だから、どんどん栄養を与えてあげてほしい。

しかし、良いことと悪いこと、それは親が教えなきゃいけない。多くの子どもたちに言いたいのは、小さな勇気、好きなものを見つける勇気、そしてそれを、『人がやっていないから』じゃなくて、『誰もやってないけれども、やってみたい』と思って、それを実行する勇気を持ってほしい。その勇気がどんどんどんどん回っていくと、ある時、良いことと悪いことを自分で判断しなければいけない時が来る。そのときに、ちゃんと善悪の判断ができる大人になること。これはとっても大切なこと。誰も知らない世界で、好きなことを突き詰めてやっていくと、いつのまにか『まわりに誰もいない』という次元に到達します。その先に行くには『自分との戦い』になる。その自分との戦いをずっと続けるうちに、『自分には何でもできるんじゃないか』そう思ったときに、『善と悪』というものをしっかりと持っていないと困ったことになる。『勇気と善悪。この2つを礼儀正しく』。何でもやっていいんじゃないくて、礼儀正しくやっていくことをお願いしたい。」

という内容でした。(一部言葉の言い回しを変えたりしているので、もしかすると外尾さんの言いたかったこととずれてしまっている部分があるかもしれません)

当園の保育では、「遊び＝学び」であり、「夢中になって遊んでいたら、いつの間にかいろんなことができるようになっていた」を理想として、「夢中になって遊ぶこと」を大切にしています。夢中になって遊んでいる子どもの姿は、まさに外尾さんのいう「無意識の勇気」そのものではないでしょうか。やりたいからやる、楽しいからやっている。大人はつい遊びを「何を学んでいるのだろう」とか、「何かの学びにつなげよう」と考えてしまいがちです。でも、一見無駄に見えるような時間の中にこそ、子どもが自分だけの「好き」を育てる栄養が詰まっているのかもしれません。そんなことを改めて感じました。